

第181回 全経簿記検定試験 上級 一 会計学一 模範解答

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

問題 1 [丸数字は予想配点、合計 44 点]

番号	正誤	理 由
1.	② ×	後発事象とは、貸借対照表日後に発生した事象で、次期以後の財政状態及び経営成績に影響を及ぼすものをいう。④
2.	② ○	
3.	② ○	
4.	② ×	たな卸資産は、正常営業循環基準により流動資産に属するものとする。④
5.	② ×	市場販売目的のソフトウェアである製品マスターの制作費は、研究開発費に該当する部分を除き、資産として計上しなければならない。④
6.	② ○	
7.	② ×	「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分には、営業損益計算の対象となった取引のほか、投資活動及び財務活動以外の取引によるキャッシュ・フローを記載する。④
8.	② ×	同一の納税主体において、流動資産に属する繰延税金資産と流動負債に属する繰延税金負債がある場合には、相殺して表示するものとする。④
9.	② ×	減損損失を認識するかどうかの判定は、資産又は資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額と帳簿価額を比較することによって行う。④
10.	② ○	

問題 2 [丸数字は予想配点、合計 36 点]

問 1

(金額単位：千円)

ア	③	400,000	イ	③	50,000	ウ	③	2,500
エ	③	資産除去引当金	オ	③	413,536	カ	③	51,692
キ	③	677	ク	③	資産除去債務			

問 2

有形固定資産に対応する除去費用が、当該有形固定資産の使用に応じて各期に適切な形で費用配分されるという点では、引当金処理と両建処理は同様である。⑥
--

問 3

引当金処理の場合には、有形固定資産の除去に必要な金額が貸借対照表に計上されないことから、資産除去債務の負債計上が不十分であるため、両建処理が採用されている。⑥

問題 3 [丸数字は予想配点、合計 20 点]

問 1

(a)	② 収益	(b)	② 安全	(c)	② 純資産負債
-----	------	-----	------	-----	---------

問 2

(金額単位：千円)

①	② 2,400,000	②	② 1,000,000	③	② 600,000
④	② 500,000				

問 3

流動資産の中には、負債の返済に充てることができない前払費用等が含まれているため、流動比率は 100%を超えることが望ましいとされる。⑥